

報道機関各位

令和2年酒田港の取扱貨物量について（速報値）

概要

酒田港の令和2年取扱貨物量は、外貿貨物（輸出入）が1,920,700トン（前年比-18.6%）、内貿貨物（移出入^{※1}）が871,185トン（前年比-9.6%）、全貨物量が2,791,885トン（前年比-16.0%）となった。

コンテナ貨物量（実入りコンテナ）は、輸出入合計が21,879TEU^{※2}（前年比-13.6%）となった（コンテナ取扱個数（空コンテナ込）は、輸移出・輸移入合計が36,018TEU（前年比-12.4%））。

リサイクル貨物量は、輸移出・輸移入合計が338,407トン（前年比-21.6%）となった。

酒田港国際ターミナル

令和2年取扱全貨物量の概要

- ・・・別紙参考資料-1

令和2年コンテナ貨物量の概要

- ・・・別紙参考資料-2

令和2年リサイクル貨物量^{※3}の概要

- ・・・別紙参考資料-3



※1 「移出」：貨物を国内の他の地域へ送り出すこと。「移入」：貨物を国内の他の地域から移し入れること。

※2 「TEU」：20フィートコンテナ換算のコンテナ取扱量の単位。40フィートコンテナ1個は2TEU。

※3 平成15年に酒田港は、国土交通省から、生産や消費活動で排出されたものの輸送の拠点となる総合静脈物流拠点港（リサイクルポート）の指定を受けた。

【問合せ先】

県土整備部空港港湾課 課長補佐 秋場 TEL：023-630-2447（取扱貨物全般）

産業労働部貿易振興課 課長補佐 池田 TEL：023-630-2364（コンテナ関係）

県港湾事務所港湾振興室 室長補佐 後藤 TEL：0234-26-5634（リサイクル関係）

報道監 県土整備部次長 高橋、産業労働部次長 安孫子

令和2年取扱全貨物量の概要

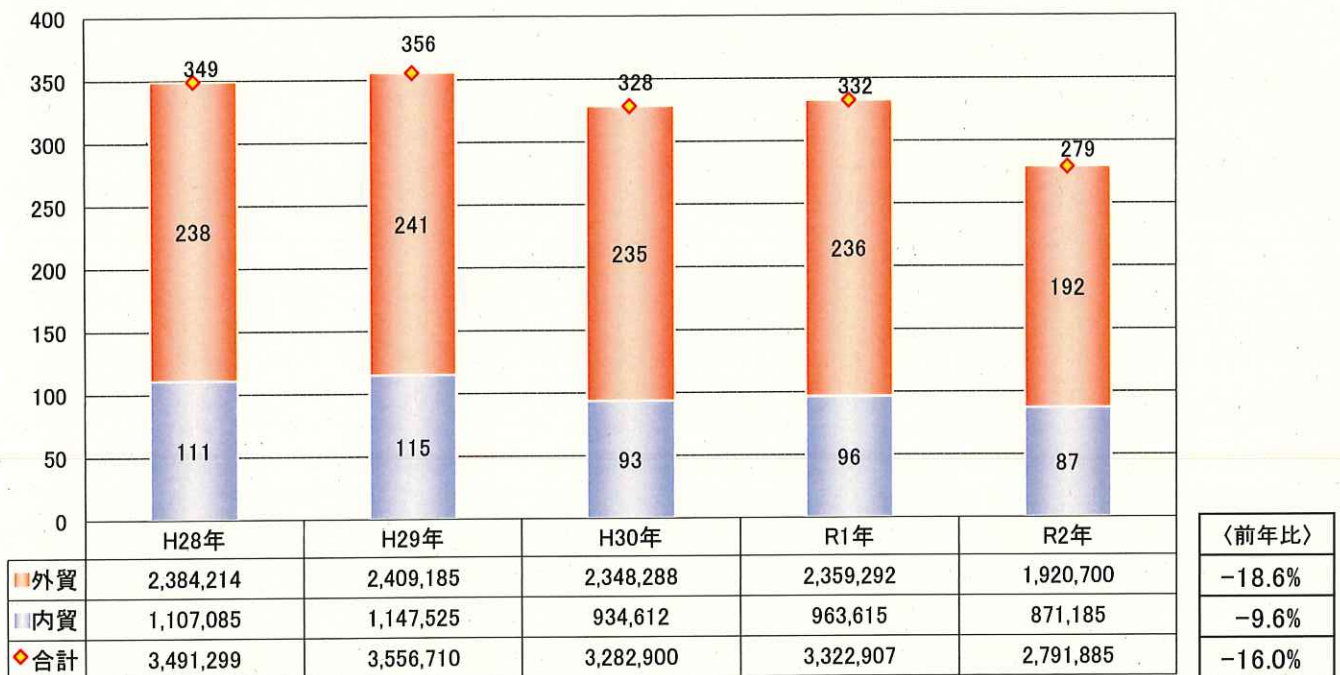
取扱全貨物量については、グラフ1のとおり、外貨貨物が1,920,700トン（前年比-18.6%）、内貨貨物が871,185トン（前年比-9.6%）、合計が2,791,885トン（前年比-16.0%）となった。

上位5品種については、表1のとおり、「セメント」が増加したが、「石炭」、「揮発油及びその他の石油」、「窯業品」、「その他日用品」は減少した。

「石炭」が全体の52.0%を占めており、また、上位5品種で酒田港全貨物量の77.8%を占めている。

グラフ1 過去5年間の全貨物量の推移

(単位:万トン)



(単位:トン)

表1 主要品種別の貨物量の推移

(単位:トン)

品 種	H28	H29	H30	R1	R2	割合	前年比 R2/R1
石炭	1,891,624	1,847,433	1,807,082	1,804,036	1,449,986	52.0%	-19.6%
揮発油及び その他の石油	343,635	382,960	383,075	367,731	330,869	11.9%	-10.0%
セメント	125,442	126,725	120,594	113,211	143,345	5.1%	+26.6%
窯業品	295,430	283,956	163,140	176,837	131,619	4.7%	-25.6%
その他日用品	113,719	149,251	134,904	144,476	115,172	4.1%	-20.3%
その他	721,449	766,385	674,105	716,616	620,894	22.2%	-13.4%
合計	3,491,299	3,556,710	3,282,900	3,322,907	2,791,885	100.0%	-16.0%

※ 「揮発油」及び「その他の石油」は、平成29年までの「石油製品」が、平成30年度から細分化された品種であるが、前年までとの比較のため、本資料では2つの品種を合算して計上した。

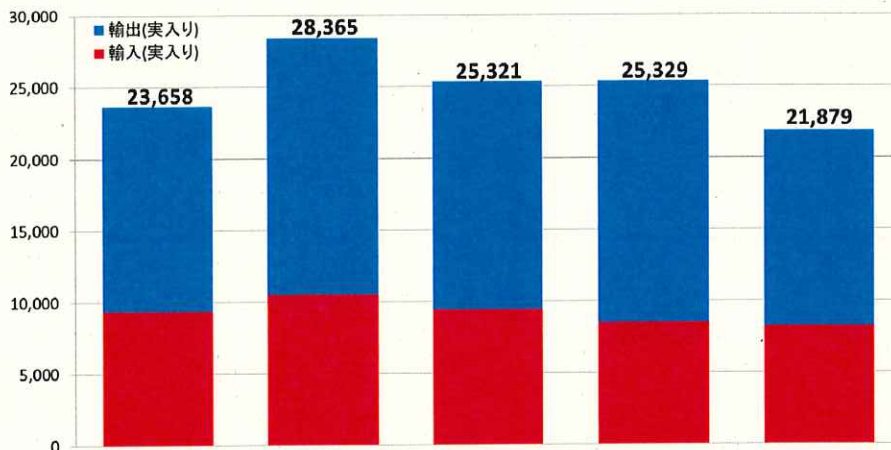
令和2年コンテナ貨物量の概要

コンテナ貨物量(実入りコンテナ)については、グラフ2のとおり、輸出が13,634TEU(前年比-19.0%)、輸入が8,245TEU(前年比-3.1%)、輸出入合計が21,879TEU(前年比-13.6%)となった(コンテナ取扱個数(空コンテナ込)については、下表のとおり)。

品種別では、表2のとおり、輸出では主要品種全てで減少した。輸入では「化学薬品」が増加し、「製造食品」、「木製品」、「その他繊維工業品」、「紙・パルプ」が減少した。

グラフ2 過去5年間のコンテナ貨物量の推移

(単位：TEU)



種別	H28年	H29年	H30年	R1年	R2年	〈前年比〉	
実入りコンテナ	輸出	14,272	17,853	15,848	16,823	13,634	-19.0%
	輸入	9,386	10,512	9,473	8,506	8,245	-3.1%
	合計	23,658	28,365	25,321	25,329	21,879	-13.6%

【コンテナ取扱個数(空コンテナ込)】

コンテナ取扱個数	輸移出	18,663	23,095	20,708	20,281	18,498	-8.8%
	輸移入	18,268	23,540	20,543	20,819	17,520	-15.8%
	合計	36,931	46,635	41,251	41,100	36,018	-12.4%

(単位：TEU)

表2 主要品種別のコンテナ貨物量の推移

(単位：TEU)

品 種	輸 出						輸 入						
	H28	H29	H30	R1	R2	前年比 R2/R1	品 種	H28	H29	H30	R1	R2	前年比 R2/R1
その他日用品	11,349	14,899	13,448	14,400	11,488	-20.2%	製造食品	957	1,235	1,005	968	927	-4.2%
再利用資材	1,390	1,324	664	554	390	-29.6%	木製品	941	844	971	909	894	-1.7%
その他製造工業品	195	251	360	437	328	-24.9%	その他繊維工業品	1,657	1,892	1,465	866	841	-2.9%
自動車部品	178	225	264	276	264	-4.3%	紙・パルプ	1,186	1,592	1,310	1,070	732	-31.6%
電気機械	163	173	197	234	192	-17.9%	化学薬品	510	568	701	629	655	+4.1%
その他	997	981	915	922	972	+5.4%	その他	4,135	4,381	4,021	4,064	4,196	+3.3%
合 計	14,272	17,853	15,848	16,823	13,634	-19.0%	合 計	9,386	10,512	9,473	8,506	8,245	-3.1%

※四捨五入の関係上、内訳項目を合計したものが、合計と一致しない場合がある。

令和2年リサイクル貨物量の概要

リサイクル貨物量については、グラフ3のとおり、合計で338,407トン（前年比-21.6%）であった。

品目別では、表3のとおり、「鉄鋼スラグ」、「中古品（自動車部品等）」が増加したが、「石炭灰」、「バイオマス燃料」、「金属くず」、「廃プラスチック」、「古紙」が減少した。

リサイクルポートに指定された平成15年の196,821トンと比較すると約1.7倍となっている。

グラフ3 リサイクル貨物量の推移

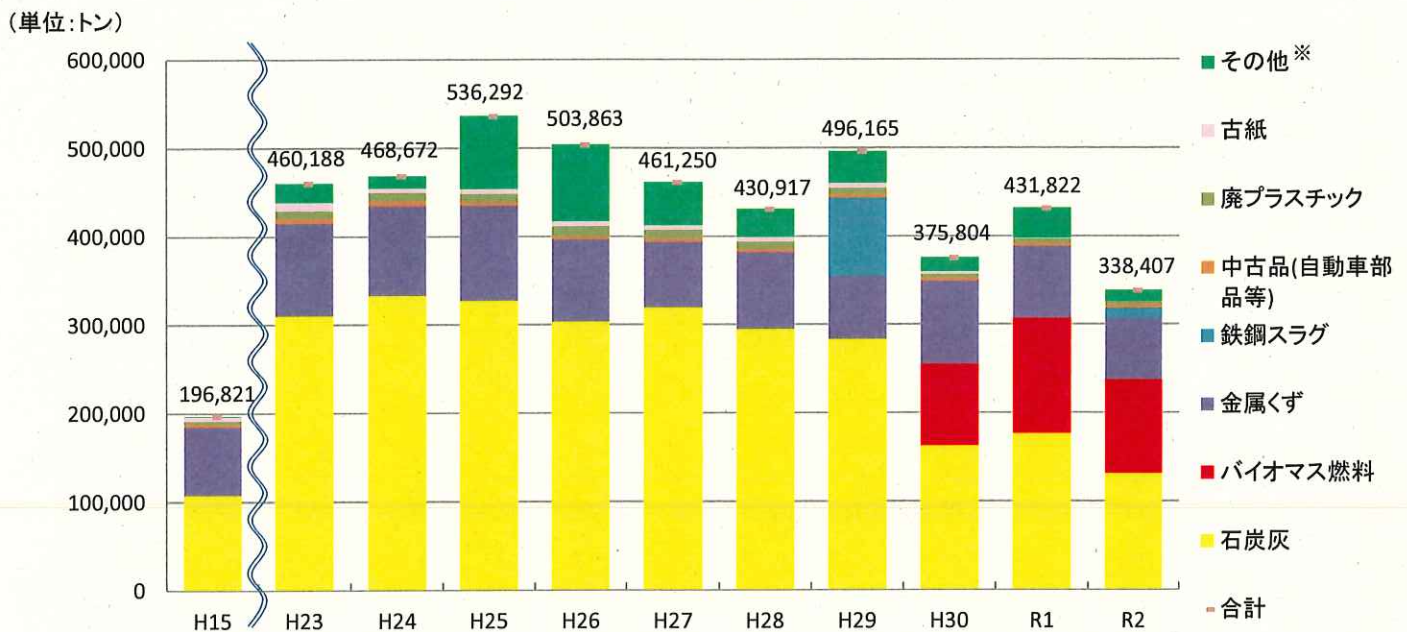


表3 主要品目別のリサイクル貨物量の推移

(単位:トン)

主要品目	H15	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	前年比 R2/R1
石炭灰	107,963	310,031	333,158	327,295	303,490	319,513	295,305	283,834	163,094	176,811	131,581	-25.6%
バイオマス燃料	0	0	0	0	0	0	0	0	92,335	130,454	105,837	-18.9%
金属くず	77,430	105,279	101,647	107,852	92,709	74,657	87,188	71,360	93,968	81,283	69,873	-14.0%
鉄鋼スラグ	0	0	0	0	0	0	0	88,375	0	0	11,000	皆増
中古品(自動車部品等)	2,948	5,248	5,456	4,166	3,636	3,420	3,142	3,601	3,766	3,626	3,940	+8.7%
廃プラスチック	3,260	8,820	9,520	9,300	11,876	9,658	8,180	7,500	3,720	4,320	3,840	-11.1%
古紙	4,560	9,260	4,918	5,620	5,340	5,360	5,200	5,580	2,860	1,220	0	皆減
その他*	660	21,550	13,973	82,059	86,812	48,642	31,902	35,915	16,061	34,108	12,336	-63.8%
合計	196,821	460,188	468,672	536,292	503,863	461,250	430,917	496,165	375,804	431,822	338,407	-21.6%

※その他：廃土砂、パーク（樹木の皮の部分）など